

関係各位

兵庫県病虫害防除所長

令和7年度病虫害発生予察技術情報第1号を發表します。

近年、普通期の水稻栽培において、イネごま葉枯病の発生圃場が散見されるようになっていっています。今後、よく圃場を觀察するとともに、昨年度発生が多かった圃場では、防除対策や施肥などにご留意願います。

令和7年度病虫害発生予察技術情報第1号 イネごま葉枯病の発生と生態について

1 対象作物 水稻（普通期栽培）

2 病害名 イネごま葉枯病

3 対象地域 兵庫県南部地域

4 本病の特徴と発生状況

- (1) 本病の病斑は周りが褐色、中央が灰褐色～灰白色楕円形で、幼穂形成期ごろから下葉に病斑が形成され、穂ばらみ期以降急激に増加し、症状が進むと穂枯れが生じる（写真）。
- (2) 昨年の普通期水稻を対象に当所が9月下旬に行った調査では、22圃場中12圃場（発生圃場率55%）で上位葉に発生が認められ、うち5圃場（同23%）で発病程度が中発生以上となり、多くの病斑が認められた。
- (3) 本病は地力不足の田、老朽化水田、砂質田等、肥料切れしやすい圃場で発生しやすい。
- (4) 令和7年7月22日気象庁発表の8月から10月の3か月予報によると、8月は平均気温が高い確率が50%、9月は60%となっており、昨年引き続き8月から9月の高温が予想される。
- (5) たい肥や緑肥の投入による地力窒素に依存した水稻栽培では、近年、移植期から出穂期にかけて、気温上昇に伴って土壌中の有機態窒素（地力）の発現が早まり、生育後半の肥効不足が生じているおそれがある。同様に、肥効調節型肥料のみを使用している省力体系は、高温で窒素成分の溶出も早まることから、生育後半に肥効不足で養分欠乏をまねき、本病発生につながっているとみられる。

5 防除対策

- (1) 出穂前の葉での発生状況に注意し、出穂前に防除を行う。これにより、いもち病と同時に防除できる。薬剤の選定は病虫害・雑草防除指導指針に従う。
- (2) 肥料切れは発生を助長する。省力化体系では昨年度の発生状況や今年度の発

生に留意し、穂ばらみ期に葉色が低下している場合、出穂するまでに穂肥を施用する。なお、穂肥施用が必要な葉色の基準は、兵庫県稲・麦・大豆作等指導指針（第1章稲作 P48-52）を参照する。

- (3) 次年度に向けては、被害わらは伝染源となるため、年内のすき込みにより腐熟を促進する。また、含鉄資材やケイ酸質肥料等の土壌改良資材の施用や堆肥施用など土づくりに努める。病原菌は種子伝染するため、種子消毒を徹底する。



写真 イネごま葉枯病の発生症状（左：イネごま葉枯病の病斑、中：穂枯れ症状(赤丸)、右：穂枯れが多発した水田の状況（上部奥が通常の葉色箇所、中央上部が多発箇所））

* 兵庫県稲・麦・大豆作等指導指針（第1章稲作）は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/documents/1syou.pdf>

* 兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>

* 病害虫・雑草防除指導指針 農薬の検索は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/noyakusearch/hyogo>

* 病害虫・雑草防除指導指針 参考資料は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/hai shi nfile/l i s t/hyogo>

* この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://boj o.hyogo-nour i nsui sangc. j p/>

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222

2022年3月1日より「兵庫県病害虫防除所」X(旧Twitter)を開設しています。

発生予察情報など病害虫に関する情報を提供しますので、是非フォローをお願いします。

Xアカウント (https://twitter.com/hyogo_boujoshou)

